

第2回全国邦楽合奏フェスティバル

特集 第2回 全国邦楽合奏フェスティバル IN 三鷹

東京 三鷹市公会堂で、盛大に

平成26年2月1、2日に東京都三鷹市の三鷹市公会堂光のホールと隣接する、さんさん館で第2回全国邦楽合奏フェスティバルが開催された。全国からアマチュア合奏団を中心とする出演者、観客など1300人が集まり盛大なイベントとなった。

2日目に開催された全国邦楽合奏コンサートには21団体が参加し、合奏講習曲も含めると23曲演奏された。1日目は少人数のアンサンブルを披露

する14グループのミニコンサートが開催された。同時進行で、各種ワークショップ、和楽器製作の実演も行われた。

全国邦楽合奏フェスティバルの成功のために150人を越えるボランティアスタッフと地元三鷹市邦楽連盟、洗足学園音大学生、全国邦楽器商工業組合他多数の団体、個人に協力していただいた。その様子を特集で紹介する(2~4ページに特集記事)。



全国邦楽合奏フェスティバル合同合奏曲 ダンスコンセルタントI 四季(三木稔作曲 苦米地英一氏指揮)の演奏 2014年2月2日 三鷹市公会堂で

第2回全国邦楽合奏協会コンクール



第2回全国邦楽合奏協会邦楽コンクールでの記念写真

原田豊鳳さん(熱の部)
入江要介さん(達の部)
が最優秀

2013年7月28日(日)に大阪市の阿倍野区民センター小ホールで、第2回邦楽コンクールを開催しました。全国各地で邦楽コンクールが開催されるようになったとはいえ、今回はシニアだけでなく参加

対象者を広げての開催となりました。60歳以上の部を「熱」59歳以下の部を「達」とし、各世代への参加を呼びかけ参加者の幅が広がりました(関連記事 5ページ)。

総会

平成25年度総会東京三鷹で

平成25年6月10日に総会が東京都三鷹市の三鷹市公会堂さんさん館でおこなわれた。この会場は平成26年2月1、2日に開催された第2回全国邦楽合奏フェスティバルの会場でもあり、会場の下見を兼ねての総会となった。

事業報告のあと、平成25年度の事業計画、活動予算、平成24年度活動報告、活動決

算などが審議され活発な意見がでた。その中で、第2回全国邦楽合奏フェスティバルの進捗状況などが報告された。全ての議案が満場一致で決された。

写真▶ 平成25年度総会議案を討議する出席者。円内は藤本玲理事長。



主な記事

- 2~4ページ 第2回全国邦楽合奏フェスティバル
- 5ページ 第2回全国邦楽合奏協会邦楽コンクール
- 6ページ 理事長ごあいさつ
- 第1回日韓伝統音楽祭、5月4日釜山で開催

~2014年度総会は6月7日(土) 東京開催~
新宿NPO協働推進センター 2時

ワークショップ邦楽合奏の技!

「びかむ」が極意を披露

2014年2月1日、光のホールで「邦楽合奏の技!」と題して坂田梁山、坂田美子、稲葉美和のユニット「びかむ」に、どうすれば、邦楽合奏が上手になるかという参加者からの疑問をぶつけるイベントが邦楽ジャーナルの田中隆文編集長の司会で開催された。

旧ユーゴスラビア(現ボスニア・ヘルツェゴビナ)

の国民的歌手のヤドランカさんが作曲した「火の螢」の楽譜がプロジェクトで紹介された。五線譜を基本にはしているが尺八、琵琶、箏それぞれにそれぞれの奏者にしかわからない書き込みがあり、他のメンバーも分からないという。楽譜はあくまでも、目安とのこと。また、メトロノーム、チューナーは練習に使う。メトロノームどおりの演奏では、面白くない、「びかむ」の中心はあくまでも唄で、歌手の



2月1日 「びかむ」による交流質問会

息づかいに合わせて音の長さは微妙に伸び縮みしているようだ。また、チューナーも基音をとったあとは、オクターブや5度の違いは、「気持ちの良い音」に合わせているという。

尺八吹きには気になるB♭、E♭を簡単に出せる方法について

でも質問があり、1孔、4孔の下側を削ると出にくい音も大分出やすくなることが紹介された。

その後、稲葉美和編曲の「敦盛」、坂田美子作詞、ヤドランカ作曲の「火の螢」が演奏された。(れ)。



写真左 上が削る前。下が1孔管尻側を削ったところ。E♭が出しやすくなると坂田梁山氏。同様に4孔を削るとB♭が出しやすくなる。

音作りワークショップ

「ちゃちゃつぽ、ちゃつぽ」小学校低学年で行われる手指を使ったリズム遊びだ。2月1日、2日の両日にわたり展示室で行われた石上則子氏のグループと洗足学園音楽大学の企画で「演奏者・指導者向け音づくりワークショップ

♪」が行われた(写真右)。どこまで正確に早く、「ちゃちゃつぽ、ちゃつぽ」をすることができますか。「ちゃちゃつぽ」とその倍速の「ちゃちゃつぽ」を合わせることができますか。まさに音を楽しむ「音楽」だ(れ)。



7分コンサート

2月2日午後、さんさん館にあるカフェレストラン「C-Cafe」の前では、三鷹市邦楽連盟と東京芸術大学大学院邦楽専攻の学生が出演して7分コンサートが開催された。「ひかりのホール」に入るのは有料だが、ロビーの展示やこの7分コンサートは無料で楽しむことができる。たまたま、食事に来たお客さんも足を止めて演奏に聴

き入っていた。「春の海」は正月に演奏される機会が多い曲だが、邦楽にあまり縁のない一般の人が曲全体を最期まで聞く機会はあまりない。レストランの客は箏・尺八の音色で優雅な午後の「お茶」を楽しめたと思う。写真左は東京藝大大学院生で山水美樹(箏)さんと青木由貴(尺八)さんによる「春の海」の演奏(れ)。



回のフェスティバルでは、各地からの参加団体など多くがポスターセッションやブース展示を行った。その中で、作曲家グループ<邦楽2010>は、西洋音楽出身で邦楽器を扱う作曲家が2010年に作った団体だ。邦楽器で扱われる音を、五線譜でどの様に

表現するかは、作曲者によって違いそれは、五線譜表記の違いに最もよく現れ、それをよく見るとそれぞれの作曲家がどの様に見ているかがわかるという。

今回は展示の他、作曲家グループ<邦楽2010>コンサート 音のカタログ+ (プラス) と題して、新曲合奏を中心とし

たコンサートも行われた。披露された6曲中4曲は高校生のための箏合奏曲創造プロジェクト初演として披露された。

邦楽合奏曲のソフト(曲)の需要は邦楽合奏が普及するにつれて、増えると思われる。今年中に多くの作品が生まれるとも聞いている。楽しみだ(れ)。



邦楽合奏フェスティバルメインイベント

このフェスティバルの目玉企画の一つに、講習曲の発表がある。今回の指導は日本音楽集団の常任指揮者の苦米地英一氏だ。指導した曲は、三木稔作曲のダンスコンセルタントと合唱団「ハナミズキ」が加わってのハレルヤ、三つの汽車、そしてNHKでも流れている「復興支援ソング 花は咲く」を指導していただいた。

この中で、ダンスコンセルタントは箏、尺八、三弦以外にも琵琶や和太鼓なども加わった邦楽大合奏曲として知られている。とくに、エピソードはテンポも速く合わせにくい。フェスティバルでの講習だけで仕上がるのかという不安を持ったのは筆者だけではなかったはずだ。ポイントとなる楽器の音を聴くこと、特に重要な箇所では必ず見ることなど、一つひとつ丁寧な指導がはいる。講習開催後には次第にまとまり、そのかいあって、本番では、

立派な「ダンスコンセルタント」となった。2日の交流会で、「10年後には、邦楽合奏が、邦楽界の標準、伝統となっているだろう」と苦米地氏は挨拶で触れた。また、プロの指揮者に指導してもらっている合奏団と、そうでない合奏団との力の差についても、何人かの全奏協顧問の先生からもご指摘があり、邦楽合奏での指揮の重要性を感じた講習だった(れんかい)。



本番前日の「ダンスコンセルタント」の講習会。写真上は指揮者側から見た、受講生。写真下は受講生側から見た指揮者。写真右下は指揮、指導する苦米地英一氏(いずれも2月1日、三鷹市公会堂さんさん館で)。



衣装にもこだわった「名」演奏も!!

今回のフェスティバルでは、聴衆を目でも楽しませる工夫をしたグループが連続して登場した。尺八6重奏のグループ、竹つれづれ(千葉)は、色とりどりの帽子をかぶり、舞台上を動き回りながらの演奏をした。会場からかけ声が飛び楽しいステージとなった。続いて登場したMARIOアンサンブル(東京)は、地元三鷹のジブリの森とその隣町、調布で創作活動

にあたる水木しげるにちなんで、それぞれをモチーフにしたジブリメドレーとゲゲゲの鬼太郎のメドレーを演奏。これもジブリや鬼太郎のキャラクターを衣装にした動きのある演奏を披露した。勿論、両者とも演奏の実力も「名」演奏といえるレベルだ。フェスティバルという性格上「楽しむ、楽しませる」ことは重要な要素だ。その意味でも良い前例になった舞台だったと思う(れ)。

写真左上 竹つれづれ、による、Blue Train(廣瀬量平作曲)の演奏。写真下 MARIOアンサンブルによるジブリの森と鬼太郎の演奏。写真右上 同演奏中での一コマ。

大人気だった、体験型展示

第1回徳島大会に続いて、片切琴三味線店が箏の製作、田中楽器が箏の糸張替、加藤邦楽器店が三味線皮張を実演披露した。それに加えて今回あらたに、尺八と紅木敷物の製作体験ができるコーナーも加わった。

「竹笛を作ってみよう」と題した尺八製作が大人気だ。製作には千円という料金がかかるが、マイ尺八が自作できるということもあり子どもを中心として体

験希望者が続出した。事前に油抜き、乾燥、節抜き、唄口加工が施された一尺六寸の竹材に電動ドリルで手穴をあけ微調整すれば出来上がる。

ブースを出した遠藤 晏弘 尺八工房で



尺八製作体験をする子どもたち

木のダイヤモンド
一番人気は尺八製作体験
は20本を用意したが1日目ですべて「売り切れ」た。そのため、急速2日目の分を10本用意した。自分で作成した尺八の吹き方を教わり音が出たときの子ども達の笑顔が印象的だ。一方、箏の装飾品も作る向山楽器は、木のダイヤモンドと言われる



木のダイヤモンドと言われる紅木で箏の音穴が装飾される。その端材で紅木の敷物製作体験ができる。

る紅木の敷物製作体験コーナーを出した。音穴の装飾、紅木玉淵を作る際、その中心部分は端材となる。しかし、ワシントン条約で取引に制限のあるインド紅木は現在ほとんどが家具材料として中国に輸出されているため入手困難な貴重品だ。磨けば磨くほど輝きを増す紅木を記者も一つ購入し帰宅してから時間をみつけては磨いている(れ)。

全国邦楽合奏フェスティバルこぼれ話



第2回全国邦楽合奏フェスティバル懇親会で阿波踊りを踊る参加者。

2月2日 全国邦楽合奏フェスティバル懇親会が三鷹市公会堂さんさん館でもたれた。約200人の参加者、スタッフが、立食パーティーを楽しんだ。

まず、実行委員会を代表して立花茂生氏の挨拶とフェスティバルの感想が述べられた。

会食の途中では実行委員会が企画した邦楽関係グッ

今回も阿波踊りのリズムで

ズや演奏会チケットがあるお楽しみ抽選会が行われた。その中で、「現代邦楽作曲家連盟」(現邦連)がブースを出典した。今回、なんと2代米川敏子氏がブースでの案内役?、として参加されていた。また、現邦連の中心である人間国宝・山本邦山氏から懇親会の景品として、色紙を提供していただいた。たぶん、その色紙が山本邦山氏最後の色紙となってしまった(合掌)。

フィナーレは今回も阿波踊りだ。「踊る阿呆に見る阿呆」フェスティバルにも、懇親会にも参加

して、楽しむことがなにより重要だと感じた一瞬だった。参加者の笑顔が本フェスティバルの大成功を物語っている(れ)。



挨拶をする立花茂生 実行委員長。挨拶文は下に掲載。

参加者感想、あれこれ

FaceBookからの引用でフェスティバル参加者の感想を紹介する。大きく分け三つの感想があった。▼まず古典・古曲に関してのものから。「青木彰時先生の色紙があったり、米川敏子先生がいらっしやったりしていたことを考えると、古典の社中にも宣伝はされていたのだとは思いますが、プログラムに古曲が殆どないのが、ちょっと寂しい気が(0)」「古典がこのようなフェスティバルに参加するのは難しいかもしれませんが、合奏フェスティバルの定義には古典を排除するものは何もないのですから、古典の方々の参加もぜひしてほしいですね(N)」▼素晴らしかったという感想から。

「晴らしい出会いをたくさん頂きました!合奏団って、本当に素

敵な絆で居場所ですねえ。。。(*^▽^*)(S)」「締めは阿波踊り(M)」「おかげで楽しい2日間でした。また、どこかで(金沢で?)お会いしましょう(0)。コンサートあり、講習あり、楽器屋さんの実演、楽器作り体験、楽譜、音源販売、ワークショップ、新曲発表。。。、そして交流会!『邦楽でこんなイベントがやれたら面白いだろうね!』と常々夢のように語って来たことが、全部実現した、素晴らしいお祭りでした!(N)」「いろいろない

イベントがあり、まるで邦楽の「ラ・フォル・ジュルネ」だと思いました(お)▼全国公募の演奏者からの感想。これは講習会曲にも通じる課題がありそうだ。「今後、このように全国に参加者を呼びかけるのであれば、各地で練習会ができるシステムを作ると必要だと思います。全国からのメンバーが集まるのは、前日~当日しかないわけで、前日リハーサルは必須です。これができるように事務局に働きかけねばいけません(N)」



2月2日 「Nifty邦楽フォーラム」によるAXIS(水川寿也作曲)の演奏。ALL JAPANの一例。

実行委員会からの御礼

ご出演の皆様、ご協力いただいた皆様、第2回全国邦楽合奏フェスティバルにご参加・ご協力いただきましてありがとうございました。

演奏をしてくださった皆様、そして作曲家の皆様、楽器製作・販売関連の皆様、三鷹市邦楽連の皆様、コーラスの皆様、洗足の皆様、出版社の皆様、現邦連の皆様、2010の皆様、びかむの皆様、演奏や裏方をささえてくださった高橋楽器をはじめとする多くの皆様、顧問の先生方、いろいろご迷惑をおかけした面もありましたが、温か

くご協力いただいたこと、心から御礼申し上げます。

これだけの規模のフェスティバルが皆様のご協力で、予定通りにすべての

行事が全うできたこと、そして、会期を通じて多くの皆様楽しく歓談され、またお互いの演奏を楽しまれていらっしやったこと、運営側として大きな喜びとなりました。

また、今回の成果が私達の愛する邦楽の未来への1マイルストーンとなることを願っています。

次回、2015年7月に金沢の第3回フェスティバルで再会できれば幸いです。ありがとうございました。



第2回全国邦楽合奏フェスティバル実行委員 前列左から4番目が立花茂生実行委員長 (2月2日、三鷹市さんさん館での懇親会で)

実行委員長 立花茂生

第2回全国邦楽合奏協会邦楽コンクール

(1ページから)
☆小学生から70歳代までが熱演

2013年7月28日(日)大阪市立阿倍野区民センター小ホールで、小学生から70歳代までの方々が参加されて第2回全国邦楽合奏協会邦楽コンクールが開催されました。審査は、石川憲弘(箏曲演奏家)倉橋容堂(尺八演奏家)田中隆文(邦楽ジャーナル編集長、全奏協副理事長)藤本玲(全奏協理事長)星田一山(尺八演奏家)前田智子(作曲家)吉岡紘子(箏曲演奏家)の各氏が担当しました。

熱演が繰り広げられた中、以下の方々が見事受賞なさいました(麻植)。

【熟の部】(60歳以上)最優秀金賞

☆原田豊鳳(大阪)「竹籟五章」

【達の部】(59歳以下)最優秀金賞

☆入江要介(東京)「竹籟五章」

【全奏協賞】

☆細山伶観(東京)「スターダスト」

☆白石さくら(徳島)「風のトーンは南南西」

【審査員奨励賞】

☆佐野琴那(徳島)「神仙調舞曲」

【実行委員長賞】

☆宿里節子(大阪)「芽生え」



【熟の部】最優秀金賞の原田豊鳳さん(左)と【達の部】最優秀金賞の入江要介さん。



全奏協賞を受賞した白石さくらさん



水田光世さんと奥田洋さんの三弦、尺八二重奏の演奏



審査員奨励賞を受賞した佐野琴那さん

第3回全国邦楽合奏協会邦楽コンクール開催決定しました。7月20日(日)クレオ大阪西にて実施します。本年から、「熟の部」「達の部」に加えて、「小中高生のための「萌の部」」を創設しました。皆さま、多くの方に参加の呼びかけをお願いします。

第3回全国邦楽合奏協会邦楽コンクール

日時 2014年7月20日(日) 11時開始
会場 大阪府立クレオ大阪西ホール(400席)
大阪府北花田のほろ区民センター(400席)
西九条ホール(見物券あり)・阪神女人はなホール(見物券あり)
入場料 無料(常理事務不要)
主催 NPO法人全国邦楽合奏協会(全奏協)
<http://zensokyo.org/>

■ ごあいさつ

あつという間の一年が過ぎ、無事25年度の事業が全て完了した事を報告いたします。ひとえに皆様方の多方面におたつのご尽力ご協力のおかげ、誠に有り難く心より感謝して厚く御礼申し上げます。昨年7月の大阪「第2回邦楽コンクール」、今年2月の東京三鷹市「第2回全国邦楽合奏フェスティバル」は全奏協の核となる事業として確実に大きく発展致しました。また、新たに日韓の伝統音楽交流会議もスタートし、国外への広が

りも見えてきました。26年度の最初の事業として、5月4日に「日韓伝統音楽祭」が全奏協、国立釜山国楽院、釜山文化財団、在釜山日本国総領事館、駐神戸大韓民国総領事館との五者で開催される事になりました。朝鮮通信使祭りの一環で、全奏協として全国各地より23名が参加します。6月7日には東京での総会予定、7月20日「大阪邦楽コンクール」と続きます。「第3回全国邦楽合奏フェスティバル」は27年度7月25(土)26(日)に石



藤本玲全奏協理事長
 川県立音楽堂で開催が決まっています。北陸新幹線開通の年、観光地としても素晴らしい金沢に今から参加ご予約下さいませ。今後とも皆様のご支援、ご協力よろしく願い申し上げます。

全国邦楽合奏協会
 理事長 藤本 玲

第3回は石川県金沢で
日時：平成27年7月25日(土)、26日(日)
場所：石川県立音楽堂(石川県金沢市)
 写真：邦楽ホール(720席) この音楽堂、凄い設備らしい...

第1回日韓伝統音楽祭、5月4日に釜山で開催

昨年10月27日に開催された韓国釜山の国楽合奏団オウルリムの演奏会に合同参加した翌日、日韓両国から約30名が集まって日韓伝統音楽交流会議を開催した。またその翌日、釣谷真弓さんと共に国立釜山国楽院を訪れ、So In-Hwa院長らとともに日韓の文化交流についての意見交換を行った。その話の中で、So院長から今年5月初めに釜山市で開催される釜山文化財団主催の朝鮮通信使祭りに併せて日韓で何か行事を行ってほしいとの意見が出され、5月4日に第1回日韓伝統音楽祭を開催することがとんとん拍子に決まった。



釜山国楽院のメインホール(上)と小ホール 下は韓国伝統楽器のカヤグムの演奏 写真は釜山国楽院ホームページより引用

国楽院は韓国伝統文化の保存・継承のため各種芸能の公演や教育を行っている国の機関で、ソウル国楽院を含めて韓国に4院がある。釜山国楽院は2008年に開設された新しい機関だけに海外との交流にもこれから力を入れようとしているところで、今回の行事に大きな期待を寄せている。主催は国立釜山国楽院と全国邦楽合奏協会。共催機関として、釜山市文化財団、在釜山日本国総領事館、駐神戸大韓民国総領事館が加わる。会場となる国立釜山国楽院は釜山

の中心街四面(ソミョン)の近くにあり、大ホール(連楽堂「ヨンラッタン」)と小ホール(芸池堂「イェチダン」)そして伝統舞踊、伝統音楽のための練習場を備えた素晴らしい施設であり、専属芸術団として演奏団と舞踊団を有している。

行事構成は大きく三つに分かれる。一つは4日午前に行われる日韓伝統音楽シンポジウム。日韓伝統音楽の連携の将来を中心に日韓から演奏者等数名ずつがパネリストとして参加し、意見交換する。二つ目は午後の時間帯に開催する国楽院練習室でのワークショップで、参加演奏者はもちろん、釜山市民、子どもたちを対象にして日韓伝統楽器の体験が行われる。カヤグムと箏、ヘグムと三味線、テグムと尺八、

また日韓の打楽器を組にして、日韓の同類の楽器の比較体験ができるようにする。三つ目は夜の部で国楽院ホールでの日韓伝統音楽コンサートである。全奏協側のプログラムとしては4曲を予定している。1曲目は古曲箏曲「六段の調べ」、2曲目は古典曲本(尺八虚無僧曲)の「調子」、3曲目は打楽器曲の「神舞」、そして4曲目は大合奏曲の「編曲八千代獅子(宮城道雄作曲)」であり、日本から23名が参加する。韓国側の演目は未定だが、国楽合奏団を有する国楽院だけに期待の持てる演目が生まれそうである。

日韓両国の組織的伝統音楽交流のおそらく最初の試みであり、継続してこの音楽祭を育てていきたいと願っている(英崇夫)。

人声転合

近年、新日本プロレスが観客動員数でV字回復しているという。木谷高明氏が5億円で買収し、なぜ業績不振になったのかを分析、対策を打った結果、年商50億の企業に育った。不振の原因その一。コアなファンが市場を潰した。必殺技は一つが良い。しかし、レスラーはコアなファンに媚びるためいくつもの技を決めようとする。コアなファンに媚びれば一般人の敷居は高くなる。オカダカズチカは

「レインメーカー」一つあれば良いのだ。力道山は空手チョップ、ジャイアント馬場は16文キックと言う具合だ。第二に会場はなぜ後楽園ホールか?狭い会場が満員にすればファンにとってプロレス人気復活と錯覚しリピーターとなる。第三にかつてプロレスを見ていた隠れファンを発掘する。第4にレスラーはいないが、プロレスを見る文化のある、アジア諸国への進出だ。(詳細は日経トレンドジャーナル2014年4月号を参照) プロレスを邦楽に置き換える

とどうだろうか。一般の人は「春の海」を聞いて邦楽から満足を得る。そしてまた「春の海」を期待して会場に足を運ぶのではないだろうか。演奏会で「春の海」を聴く機会がどれほどあるだろうか。第二は会場の格にこだわりはないか。八百席の会場で二百人と二百席で二百人、どちらが活況を呈するだろうか。第三は、尺八三本会時代からの人も含め隠れ邦楽ファンは多いはず。彼らを会場に呼び込むような仕掛けが出来ているだ

ろうか。第四は、和食が世界遺産に登録された今、和食文化とセットなのは陶磁器だけではない。日本の美術、音楽、建築等が、和食とセットで「輸出」できるはずだ。今回のフェスティバルを含め三年間の全奏協活動を見ていると、V字回復した新日本プロレスの戦略に通じるものが見え隠れしている様に筆者には感じられる。さらにもう一歩、邦楽界がすべきこと、出来ること、まだまだあると考えるのは筆者だけだろうか(れ)。